

次の会話文は、鎌倉へ校外学習に行ったM高校の生徒が、後日の総合的な探究の時間の授業で、観光地について考えたときのものです。

「①」に入る内容として、会話文と資料・写真を参考に、オーバーツーリズムの定義を、「こと」につながるように、25字以上、50字以内で答えなさい。

(先生) 先日の校外学習はどうでしたか。

(町子) 楽しかったです。でも、人が多くてけっこう疲れました。鎌倉ってあんなに混んでるんですね。

(先生) そうなんだよ。でも、実はこれは鎌倉に限ったことではないんだよ。

日本各地で起こっていることなんだ。ちよつと資料1、2を見てみよう。どんなことが分かるかな。

(町太郎) コロナ禍かと今とを比べると、だいぶ変化があります。

(町子) 観光地は活性化してるってことですよ。商業施設にとっては良い方向に向かっているんですね。

(先生) うん、そうだね。でも、物事には良い面と悪い面ってどうしてもあるんじゃないかな。

(町太郎) 観光客が増えることで何か悪いことが起きてるってことですか。

(先生) そう。写真1、2、3を見てごらん。

(町太郎) へー、良いことばかりじゃないんだ。

(先生) 観光地ではこのようなことが起こっているんだね。これを「オーバーツーリズム」と言うんだよ。

(町子) ニュースでよく聞く言葉です。オーバーツーリズムって、「①」ことなんですね。



VJ事業とは
 ・訪日外国人旅行者の増加を目的とした訪日プロモーション事業のこと。

資料1 訪日外国人旅行者・出国日本人数の推移 (観光庁HP)



調査に関する留意点

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年4-6月期から2021年7-9月期はすべての調査を中止した。
- ・A1.全国調査は2021年10-12月期より、B2.クルーズ調査は2023年7-9月期よりそれぞれ調査を開始した。

数値の扱いに関する留意点

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年10-12月期、2022年1-3月期、4-6月期、7-9月期は試算値として公表しているため、数値の扱いには留意が必要である。
- ・2021年10-12月期から2023年4-6月期までの消費額には「クルーズ客」の消費額が含まれていない。また、2023年7-9月期、10-12月期の消費額に含まれる「クルーズ客」の消費額は参考値である。

資料2 四半期の旅行消費額・1人当たり旅行支出の推移 (観光庁HP)



写真1 観光客が公道に滞留（国土交通省 HP）



写真2 農地に入るバスツアー観光客（国土交通省 HP
観光庁説明資料令和5年9月6日）



写真3 街中のマナー啓発の看板（国土交通省 HP
観光庁説明資料令和5年9月6日）

二 次の記事を読み後の問題について400字程度で答えなさい。

日本人が法律に規定されずともルールやマナーを守ることは世界でも広く知られている。東日本大震災の後に、暴動も略奪も起こらず、静かに給水車や配給の列に並んでいる人々の光景を世界は賞賛した。しかし、海外では必ずしもそうではない。

私の友人であるハワイ州政府の登山道管理者は、ハワイでは登山道の標識を新設してから1カ月もすれば、落書きされるか蹴られるなどして破損することが日常茶飯事だと言っていた。そのために頻繁なパトロールが欠かせないとのことだった。日本ではそのようなことはあまり考えられないし、「パトロールはほとんどしていない」と言ったら彼はとても驚いていた。

また、環境条約に関する国際会議でスロヴェニアに行った際、私は国立公園をはじめとする日本の多くの自然観光地が、法律に基づかない「自主的なルール」(自主ルール)で守られていることを話した。こうした法律に基づかないルールも、上手に言えば、保全効果が高いという提案をしたのだった。しかし、「拘束力のない自主的なルールを守るのは日本人だけだ。日本以外では絶対に通用しない」(つまり、一般化できない)と批判された。その時は悔しい思いもしたが、おそらくこれは事実である。それくらい日本が良い意味でも特殊であることは理解しておいてよい。

また、ネパールで著名な観光地を回った際に、プラごみのあまりの多さに眩暈がしたことを覚えているが、国によっては、ゴミのポイ捨ては当たり前だと思っている人もいる。ゴミを捨てないと、ゴミを掃除する人の仕事を奪うと考えている人もいる。つまり、**文化や価値観は極めて多様で、そうした様々な人が日本にやってくる**ということである。

もちろん日本人も手放しで褒められるものではない。かつてヨーロッパの大聖堂や古城では、日本人の落書きがたくさん見られた。SNS時代になり簡単に名前をさらされるようになったので、落書きは急速に減っているようだが、私はいたるところで恥ずかしい思いをしたことを覚えている。

日本人は「恥の文化」(関心のある方は、ルース・ベネディクト『菊と刀』を参照のこと)なので、法律に規定されているか否かを問わずに、「世間の目」を恐れて、ルールやマナーを守る傾向がある。しかし、世間の目が届かない外国や旅先では、「旅の恥はかき捨て」となりやすく、他の人も落書きをしていけば、「みんなで渡れば怖くない」という気持ちにもなりやすいように思う。

どの国や文化にもそれぞれの美德や欠点がある。私たちは寛容さを忘れてはいけないうし、その背景や価値観の違いにも思いを馳せ、守るべき部分と譲歩できる部分を真摯に考えることが重要である。これは、一方的に「おもてなし」を押し付けることよりも重要なことだろう。

『オーバーツーリズム解決論 日本の現状と改善戦略』 田中俊徳

問 傍線部について、そのような人々を日本に迎える立場として大切にすべきことは何か。また、本校入学後も多様な生徒との出会いの中で、どのような点に留意して高校生活を送ろうと思うか。以上二点について本文を踏まえ、それぞれ具体的な場面を挙げて答えなさい。